



月主題：出会い

「ご入園・ご進級おめでとうございます。」

今年の春は、いつもの春とは全く違います。コロナウイルスの影響で、様々なものが自粛となり、聖ミカエル幼稚園も2月末からずっと臨時休園、そして春休みに入ってしまった。卒園式だけは形を縮小し、年長さんたちと保護者各1名と、教員10名ではありますが、行うことができました。しかし、チャプレン、園長、父母の会会長さんのお話もなし、歌も1曲だけにしぼり、みんなマスクをつけ、卒園証書授与を中心に式を進めました。

本来ならかわいい年中さん、年少さんからの言葉かけがあり、カッコいい年長さんの最後の歌を子どもたちみんな聞いて、みんな年長さんの卒園式をお祝いしたかったのに本当に残念でした。

そんな中でも、年長さんたちはとても立派でした。ほとんど練習もできなかったのに、入場も退場も胸を張って堂々としていましたし、証書をもらうときも背筋をピンと伸ばして、しっかりと足取りでした。3年間で子どもはこんなに成長するのだ、と感じました。そして最後の「大きくなったよ」のお歌は、聞いている大人みんなの心に響きました。なんて素敵な子どもたちなのか、ミカエルの園長で本当に良かった、と涙が止まりませんでした。

春休み、年長の女の子と、お母様が「散歩のついでに」と幼稚園に寄って下さいました。そのお母様が、「色々残念ですが、うちの子ども、最後に縦割りの年中さん年少さんにさよならが言いたかった、っていうんです。本当に残念です。」と涙ぐんでいらっしゃいました。

お子さんにとっても、お母様にとっても聖ミカエル幼稚園で過ごした3年間にたくさんの人との心の交流があったのでしょうか。突然その交流を断ち切らざるを得なかったこと、本当に申し訳なく思います。そして、それだけ深く人と交わることができるのが、この幼稚園の良さなのだと思います。

幼児期はあっという間に終わります。でもその短い幼児期に、子どもたちは人とつながっていく大切さや楽しさを学んでいきます。その成長を助けるのは、お父さん、お母さんの周囲へのまなざしです。周りのお父さん、お母さんと仲良く助け合おう、つながろう、とまなざしを周りに向けると、子どもたちも同じように周りのお友達にまなざしを向けていきます。恥ずかしがり屋のお父さんお母さ

んもいらっしゃることでしょうから、お声をかけられる方が、積極的にお声をかけてあげてください。

また、玄関や通園バスでは、園長はじめ職員がどんどん皆様に声をかけていきます。ご心配なこと、何気ないお子さんの楽しいエピソードなど、どうぞお話しください。

4月8日の始業式から、幼稚園は教育活動を再開いたします。まだ、様々な願いをしなくてはなりません、子どもたちにとって楽しい豊かな園生活になるよう努めてまいります。一年間どうぞよろしくお祈りいたします。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「試練を超えて」

新型コロナウイルスのために多くの人々が、いま不安の中にあります。幼稚園も、教会も、もちろん初めて遭遇する事態です。感染が急拡大している東京などでは、教会は完全に礼拝を中止し、4月12日に迎える一番大切なイースターも、人が集まれないまま過ごすこととなります。ただ、ほとんどの教会は、牧師や神父が、この時、礼拝堂で一人で祈り続けています。亡くなった方々、ご家族の平安のため、ウイルス対策に奔走する医療従事者が守られるように、そして、この困難が早く過ぎ去るように。世界中の教会で、祈っています。どんな時も、集まる人数は少なくても、教会は人々のために祈ることを止めません。今も、小さな祈りが集まって、世界中を覆っています。祈りの力はきっとウイルスに打ち勝つはずです。

この春、新たに幼稚園に加わる年少組の保護者の方々、特に緊張と不安が強いかもしれません。ただ、幼稚園の職員は、持てる力を総動員して、そして笑顔をもって子どもたちが安心して過ごせるように頑張ろうとしています。聖書の言葉に、「神さまは私たちが乗り越えられないような試練は与えない」とあります。困難や試練があったとしても、私たちは守られ、導かれているのです。そのことを、職員も、子どもたちも、強く信じながら、新しい幼稚園の歩みを始めたいと願っています。

チャプレン 司祭 下澤 昌